

# I転車が活躍



いで崩落した道路  
＝辰野町伊那富

を調べた。大雨の影響で荒れた道でもマウンテンバイクで簡単に進んでいた。約5キロを走り、土砂と道路の崩落が計十カ所、他の道路の損傷も多数見つかったという。今後復旧作業に取り掛かる。

小口代表は「自転車はまちづくりや防災に活用できることを知ってもらいたい」と話し、町産業振興課の両角哲也さん(き)は「機動力があり、効率よく被害状況を確認できた」と語った。(清水大輔)

## 戦後76年

# 風船爆弾関与の歴史に迫る



旧南向村と風船爆弾づくりの関係を伝えるパネル展  
風船爆弾を示すことが分かった(○)で「フ」を囲んだ記号。いずれも中川村の中川文化センターで

## 中川でパネル展

中川村の旧南向村が戦時中、風船爆弾用の和紙製造に関わっていたことが分かり、村歴史民俗資料館が中川文化センターでパネル展「南向村での風船爆弾づくり」を開いている。残された日記や体験者の聞き取り調査から、製造の一端に迫る。二十六日まで。(石川才子)

風船爆弾は、太平洋戦争後半に日本軍が開発した特殊兵器で、和紙を「ん」にくりで張り合わせて、米國本土の攻撃を目指した。伊那谷では、飯田市の飯田高等女学校(現飯田風越高)が残りした一九四四(昭和十九)年の日記には、遊休

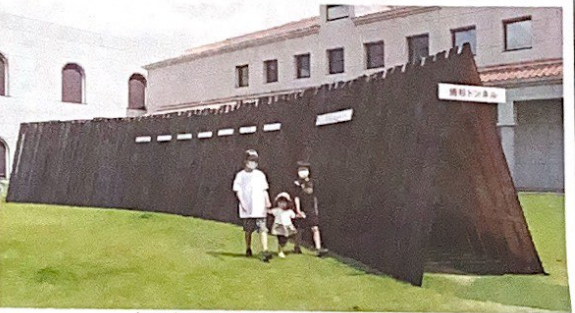
## 旧南向村で和紙製造 公文書に記されぬ実態も



工場を重需工場にしたと書かれ、「○」で「フ」の字を囲んだ記号が登場する。記号の意味は謎だったが、学芸員による今年の聞き取り調査で風船爆弾を示すことが分かり、公文書などに記されぬ実態が明らかになった。日記によると、四四年十一月から翌年二月まで和紙を製造した。従事した住民は、聞き取り調査に一冊一冊くらの大きな板の上で、和紙を何枚も重ねて張った。風船爆弾用の紙だから大事に扱うように言われた。急に今日で作業は終わりと告げられ、終わったなどと証言している。

風船爆弾を開発したとされる旧陸軍の登戸研究所は、伊那谷に疎開しているが、南向村での和紙製造との関連は不明。パネル展では、南向村で登戸研究所が適地を探していた可能性や、南国民学校の校舎が特殊兵器研究用に転用される可能性に言及し、今後の調査に情報提供を呼び掛けている。

## 焼杉トンネル木の香り感じて 安曇野市豊科近代美術館の前庭



トンネルのそばををつないで歩く子どもたち＝安曇野市豊科近代美術館で

安曇野市豊科近代美術館の前庭に、杉の板の表面を焼いて炭化させた「焼杉」を使ったオブジェ「焼杉トンネル」が登場し、子どもや親子連れを楽しませている。「焼杉」は表面を炭化させて、建築材料としての耐久性を向上させた素材。オブジェは同館で開催中の現代作家展「シンピスム4」の出品作品で、茅野市の建築家藤森照信さんが手掛けた。作品の外側にはシンピ

三角屋根のトンネルを造っている。中を歩くと、板のすき間から差し込む光や木材の香りを感じることができ



## 「大豆ミート」でヘルシーに

松本市のギョーザ製造販売「信栄食品」は二十四日、自社ブランド「マッスルギョーザ」の第五弾として、新商品「マッスルギョーザソイ」をインターネットの自社サイトと直売店で発売する。肉の代わりに食物繊維が豊富な「大豆ミート」を使用。

動物性原材料、化学調味料、トランス脂肪酸は使っていない。ダイエット中や野菜中心の食生活を好む人を対象に開発した。四十個入り、千九百八十円。「マッスルギョーザ」は同社の通常の商品に比べて、カロリー、脂質、糖質を減らした商品。問い合わせ先は026-326-6261(中津芳子)

「マッスルギョーザソイ」24日発売

品名	単価	数量	合計
第一花き	20日		
高橋	8800	4400	38800
中橋	8800	4400	38800
安橋	8800	4400	38800
...	...	...	...